

I 元禄潜穴

2 元禄潜穴ずり出し穴



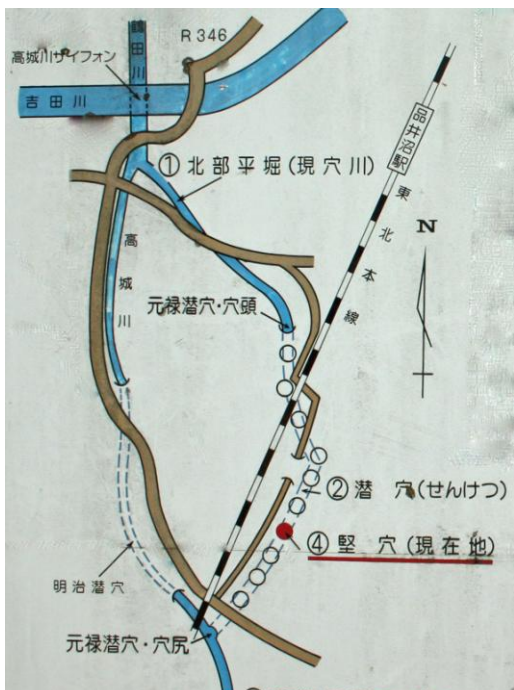
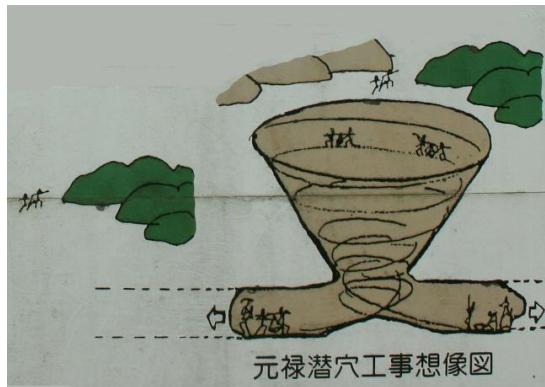
「元禄潜穴ずり出し穴」の標柱には、元禄6(1693)年から文久元(1861)年までの約 170 年にわたる品井沼の水を排水した際の土砂釣り揚げのためのものと記されている。

工事が行われた場所の地質は大半が凝灰岩であり、潜穴を掘るには適していた。しかし、岩盤に軟・硬の箇所があり、作業は容易ではなかった。

潜穴の工法は、穴頭と穴尻を結ぶ線上に、ずり出し穴を 10 か所掘り、次にずり出し穴の底で深さを決め、その底から横穴を掘って連結させるというものであった。掘られた土砂等はずり出し穴から運び出した。使用された道具は、つるはし、鍬、のみなどであり、土砂等の搬出は一間四方のモッコを使用したと考えられている。

ずり出し穴の開口部の広がりは、南北に 17.5 メートル～31.0 メートル、東西に 13.0 メートル～34.0 メートル、地上部周囲が 50.0 メートル～150.0 メートルと様々ある。また深さも 6.0 メートル～26.0 メートルとなっている。(平成 11 年 3 月松島町教育員会作成の「元禄潜穴穴ずり現況調査報告書」)





▼すり出し穴近くのコブシの巨木

